

1 「アーモンドの会」の名称のこと

アーモンドの会というのはニッケネームであつて、正式には「障がいを負う人々と共に生きる教会を指す懇談会」といいます。略称「障教懇」ですが、余りにそつけないといつので、五年ほど前から《アーモンドの会》と自称しています。しかし、実はこの長たらしい本名がこの会の本来の趣旨なのです。それは、「障がい者」という言葉をどう理解するかという問いも含んだ名称です。

《アーモンド》はもちろんあのアーモンドのことですが、日本名は巴旦杏、或いは音訳して《あめんど》です。これはエレミヤ書一章一一節に基づいていることはお分かりになると思います。口語訳聖書では「あめんど」となっているので、ほんとうは《あめんどの会》にしたかつたのですが、新共同訳聖書が《アーモンド》となっているので、それに合わせて《アーモンドの会》としました。

あめんどはイスラエルの荒野ですべての花に先駆けてうすいピンクの花を咲かせます。日本でいえばさしずめ梅の花のようです。その蕾はキリキリと萼の中に巻き込まれて、淡紅色の先端を覗かせています。まるで神の眼差しのように。

主の言葉がわたしに臨んだ。

「エレミヤよ、何が見えるか。」

わたしは答えた。

「アーモンド(シャークード)の枝が見えます。」

主はわたしに言われた。

「あなたの見るとおりだ。

わたしは、わたしの言葉を成し遂げようと

見張っている(シヨークード)。」

エレミヤの預言のように、神の目として時代と歴史と世界を《見張る者》、あるいは《先駆ける者》でありたいと願つたからです。